

会報

第108号

平成26年2月24日
新潟県特別支援教育研究会事務局
新潟市中央区白山浦1-207-3
新潟市立鏡淵小学校内
Tel 025 (265) 4111
Fax 025 (265) 4112
発行: 文久堂

インクルーシブ教育システムの構築における「交流及び共同学習」の推進



新潟県特別支援教育研究会

副会長 鷲津 毅史

国では、インクルーシブ教育システム構築のために特別支援教育が重要な柱となり、様々な仕組みの整備が行われています。昨年の九月には学校教育法施行令の一部改正が行われ、就学先決定の仕組みが改められました。この改正では、障害が就学基準に規定する程度の者について、例外的に認定就学者として小中学校へ就学を可能としている規定を改め、保護者の意見を最大限尊重しつつ関係者の合意を図ることを原則に、市町村教育委員会が障害の状態を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みとなりました。

さて、就学支援にかかわる保護者との相談において必ず話題になる内容が「交流及び共同学習」についてです。小・中学校では、特別支援学級と通常の学級間の交流が、特別支援学校に

おいては、地域の学校や子どもの居住地にある小・中学校などとの交流が望まれています。

「交流及び共同学習」は、インクルーシブ教育システム構築のための重要な役割であり、理念の実現に向けてこれまでも障害者基本法や学習指導要領改訂などで推進の在り方が述べられてきました。交流及び共同学習は、障害のある子どもが地域社会の中で積極的に活動し豊かに生きる上で、障害のない子どもとの相互理解を図ることを目的としています。また、小・中学校等の子どもたちや地域の人たちが、障害のある子どもとその教育に対する正しい理解と認識を深めるための機会でもあります。これまでの活動では、学校行事や総合的な学習の時間、一部の教科で活動を共にする直接的に触れ合う活動のほか、作品交換等の間接的な交流など、地域や学校の実態に応じて実施されています。

インクルーシブ教育システムの構築に向けて、今後も交流及び共同学習の積極的な実施が望まれています。交流を考える場合には、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていくかどうかの最も本質的な視点を大切にすることで、相互の学校の連携と実施方法の工夫及び環境の整備が課題となると考えられます。

本年は佐渡地区の研究会を加え、各地区の研究会や障害種ごとの研修が開催され、大きな成果をあげました。そして、この成果を基に学校における特別支援教育の体制整備は一定程度進みつつありますが、インクルーシブ教育システムの構築という観点からは、特別支援教育の更なる質的な充実を図る事が必要です。本研究会でも更なる研修・研究に努めてまいります。

25年度 主な事業報告

〈理事会・評議員会〉

第一回理事会・評議員会 (5月31日)

第二回理事会 (2月7日)

〈研究大会〉

○上越地区・上越南部大会

(8月7日) リージョンプラザ上越他 約450名参加

○佐渡地区大会

(8月19日) 両津文化会館他 約250名参加

○中越地区・南魚沼大会

(11月8日) 南魚沼市立北辰小学校 約260名参加

○下越地区・新発田・北蒲・胎内大会

(11月29日) 新発田市豊浦公民館 約250名参加

○新発田・胎内大会

(11月29日) 新発田市豊浦公民館 約250名参加

○新発田・胎内大会

(11月29日) 新発田市豊浦公民館 約250名参加

〈研究部研究会〉

○知的障害部

(8月6日) 白根学習館 141名参加

○自閉症・情緒障害部

(7月30日) 中之島文化センター 267名参加

○言語・難聴部

(7月26日) 上越春日謙信記念館 92名参加

○全国大会栃木大会 (関プロ大会兼)

提案者1名、指導者2名派遣

(10月24日、25日) 栃木会館他

〈会報〉

会報107号発行 (7月)

会報108号発行 (2月)

平成25年度 各地区大会報告

上越地区・上越南部大会

平成二十五年八月七日(水)、リージョンプラザ上越を主会場として「平成二十五年上越地区特別支援教育研究大会(上越市南部大会)」を開催しました。

「二人一人に応じた途切れない指導・支援の更なる充実を目指して」の大会主題のもと、地区内から幼児、小・中、特別支援学校、高校の職員、保護者等、四百名を超える参加がありました。分科会は、「就学までの支援体制の確立」「通常の学級と通級指導教室等との連携」「特別支援コーディネーターを中核とした校内体制の確立」「進学における支援体制と連携(小、中連携)」「進学における支援体制と連携(中、高連携)」「社会参加に向けた学校、家庭、地域、関係機関との連携」の六つで行われました。会員や関係者の方からの話題提供をもとに様々な連携のあり方について協議がなされ、最後にアドバイザーから貴重な助言をいただきました。



＜上越大会＞

また、全体会では新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室指導主事、長谷川絃様から「新潟県における特別支援教育の現状と課題」というテーマでご指導をいただきました。講演会は、「多様な学び手に応じた授業」ユニバーサルデザインの視点から」とい

う演題で早稲田大学大学院教職研究科准教授、高橋あつ子様からご講演をいただき、多くの示唆をいただきました。本大会は、子どもの育ちに、関係者・関係機関等が、どのように情報を共有し連携していけばよいかについて貴重な研修を深める機会となりました。

(事務局 上越市立飯小学校)

中越地区・南魚沼大会

大会主題「人とのかわりを広げ、豊かに生きる力をはぐくもう」のもと、分科会と全体会(講演会を含む)を行いました。地区内外から、幼児・小・中・特別支援学校の教職員、保護者、各種関係機関等から約二百六十名の参加がありました。

分科会は、①小学校知的・情緒②中学校知的・情緒③言語・難聴④病虚弱・肢体不自由・重複⑤発達障がい・通級⑥育成会・保護者の会、それぞれにおける連携と協働をテーマに六分科会に分かれて行われました。話題提供者の話をもとに話し合いを深めることができました。

全体会の講演会では、新潟大学自然系・教授大学院・自然科学研究科/工学部・福祉人間工学科の林豊彦様から「障がい児の学ぶ権利」を保障するには「障がい児者ITサポートセンター」との連携による学習環境整備」という演題で講演をいただきました。講演会の骨子は以下の三点でした。
・日本の、障害児は、社会のITサポート機能の不足により、二次障がいとしてコミュニケーション障害および知的障害に

陥っているのではないか。
・在学中に専門集団による長期的な支援体制を確立してもらいたい。

・地域の障害者ITサポート機能の拡充と分散化
いくつかの事例を紹介しながら、IT

サポートの重要性をお話いただきました。「障害は環境が作る。」という、言葉が心に響いたご講演でした。
豊かに生きる力をはぐくむため、これからの特別支援教育はどうあればよいかを深く考えさせられ、次への一歩を大きく踏み出すことができました。

(事務局 南魚沼市立北辰小学校)

下越地区・新発田・北蒲・胎内大会

ユニバーサルデザインやインクルーシブ教育の重要性が語られる昨今であり、特別支援教育を学校経営の重要な視点に位置付ける学校が増えてきている。参会者が二百五十三名と多く、そのうち管理職が二割を占めていることから、特別支援教育に注目が集まっていることがわかる。

大会は半日日程で全体指導、分科会発表(各分科会2名発表、協議、指導)を行い、参会者から「全体指導をもっと聞きたい」「他の分科会の内容や指導を知りたい」等の熱心な声が寄せられた。参会者に問題意



＜中越大会＞

識や見通しをもってもらい、現場に戻ってアクションを起こす契機になったことがアンケートの記述から伺えた。

また、各分科会の発表内容がよかったという声が多く、九十八%の参加者から大会の内容に肯定的な評価をいただいた。このような成果は発表者の不断の努力や発表の熱意に加え、大会準備段階に工夫があったためと分析している。

例えば、各分科会の世話役が夏季休業中に発表者の学校に赴き、発表の内容について話し合ったり司会者と打合せをしたりした。それによって発表の方向性を修正したり、協議題や話し合いの形式を工夫して参加者の意見が出やすいようにしたりすることができたと考えている。

一方で、通常学級での特別支援教育の重要性をさらに浸透させるために、通常学級の担任や研究主任等からの参加者を増やす工夫を行う必要がある。全校体制で特別支援教育を推進する一助とするべく、研究大会の案内の配付や呼びかけの方法に改善が望まれる。

(事務局 新発田市立本丸中学校)

佐渡地区・佐渡大会

「一人一人のニーズに応じた支援と連携」を大会主題に掲げ、四年に一度の佐渡地区大会を開催しました。

今年度は、特別支援教育担当者だけでなく、



<下越大会>

く、教職員、保護者、特別支援教育に関心がある市民の方々が参加しやすいように、夏季休業中の半日日程としました。お陰様で二百五十名余りの参加がありました。

当日は、ご来賓として佐渡市教育委員会教育長小林祐玄様からご祝辞をいただきました。また、新潟県教育庁義務教育課特別支援教育推進室副参事今井聡己様から「本県の特別支援教育の現状と課題」と題し、全体指導を頂きました。県内の児童生徒数は減少しているものの、特別支援の必要な児童生徒数は増加している現状の理解の場として有意義な研修となりました。

講演会では、新潟いなほの会の沼田夏子様から「ライフステージに沿った支援を考える」と題し、保護者の思い、現状について語っていただきました。参加者からは、ライフステージが上がる毎に困り感が上がる現実の厳しさに対し、今できること、これからのライフステージを見据えた上でできることを改めて考えるよい機会となった等の声が聞かれました。

「校内連携」「学校と関係機関との連携」「就学・進学に向けた連携」「保護者との連携」の四つの分科会では、実践発表と意見交換が行われました。専門機関の関係者や保護者、一般市民が一緒に情報交換ができ、今後の特別支援教育に取り組み契機となりました。

(事務局 佐渡市立加茂小学校)



<佐渡大会>

全特連報告

全特連全国大会・栃木大会 (県内派遣：発表者1名：指導者2名：本部役員4名)

提案発表「特別支援学校のセンター的を活用した取組」 柏崎市立鏡が沖中学校 寺澤 むつみ 養護教諭

全国大会・栃木大会に参加して

柏崎市立鏡が沖中学校 寺澤 むつみ 養護教諭

第20分科会(特別支援教育コーディネーターの専門性)で提案発表をしました。私は養護教諭ですが、コーディネーターをしています。特別支援教育に対しては十分な知識をもち合わせていませんでした。保健室には「困り感」を抱えた生徒や保護者が非常に多く訪れ、その相談にのりながら強く感じたのが、個に応じたサポート体制の確立の必要性でした。しかし、どのように校内を整備していったらいいのか解らず、困っていました。そこで特別支援学校のセンター的機能を利用して体制づくりを実践していきました。全国大会の協議内容にもその取組について各県から報告がありました。県によって様々な取組がなされており、当地区は恵まれていることを実感しました。また、コーディネーターの役割についての話し合いも行われ、コーディネーターの果たすべき役割の重要性も解りました。どの県でも試行錯誤しながら、校内の体制づくりや特別支援学校のセンター的機能の活用方法を模索して行きました。今後、さらに特別支援学校の果たす役割が大きくなっていると思います。特別支援学校の専門的な知識を普通学校にどのように生かすかがコーディネーターの大きな役割だと痛感しました。

祝全日本特別支援教育研究連盟功労者表彰

丸山 修 様

(前副会長・前三条市立三条小学校校長)

長年にわたり当県の特別支援教育の発展に貢献され全国大会で表彰されました。

25年度各研修部の研修の成果

知的障害部

特定非営利活動法人くらしえん・しごとえん代表理事鈴木木修様より、「働くために働き続けるために」と題してご講演いただいた。「働く」ということは、とても大変なことである。何のために働くかは、生きていくため、自分の楽しみのため、国民の「義務」、人・社会を支えるためであり、障がいのある人もない人も同じであるというお話を聞きました。実際に職場で働く、障がいのある方の様子の写真を見ながら、どんな風に働き、何を支えているかという具体的な話と「くらしえん・しごとえん」の取組を伺った。「働きたい・働き続けたい」の思いを支えるために支援者である親・学校・教師の心構えや配慮を教えてください、大変有意義な研修会となった。

言語・難聴部

「吃音とともに豊かに生きる子どもをどう支援するか」をテーマに、大阪より伊藤伸二様(日本吃音臨床研究会会長・国際吃音者連盟顧問)をお招きし、御講演を拝聴しました。吃音に対する様々な考え方や指導法がある中、吃音者としての自らの体験を通して、御自身の「吃音」に関する問題がどう変わっていったのかを伝えてくださった。参加者からの多くの質問にも時間の許す限りお応えいただき、具体的な内容で考えることができた。今年度は上越地区での開催で、会員の教員だけでなく、保護者や幼児担当者にも参加を呼び掛けた。それぞれの立場で「吃音」に対するこれまでの考えや捉えを問い直す有意義な研修会となった。

自閉症・情緒障害部

植草学園大学福祉学科佐藤慎二教授による講演会を開催した。特別支援教育の視点に立ったユニバーサルデザインの学級・授業づくりは、つまずきのある子どもだけでなく、ほかの子どもたちにとっても楽しく過ごせる学級・分りやすい授業である。よさを認め合える学級づくり、学習ルールの徹底、指示の出し方、板書の工夫、授業構成の工夫等、どの子どもも学習に参加でき、友達と学び合えることができる学級・授業にすることの大切さを学んだ。すぐ使えるミニネタや実技を織り交ぜた内容であった。県内各地から集まった二七二名以上の参加者から楽しくも、学びの多い講演会であったという感想が多く寄せられた。

編集後記

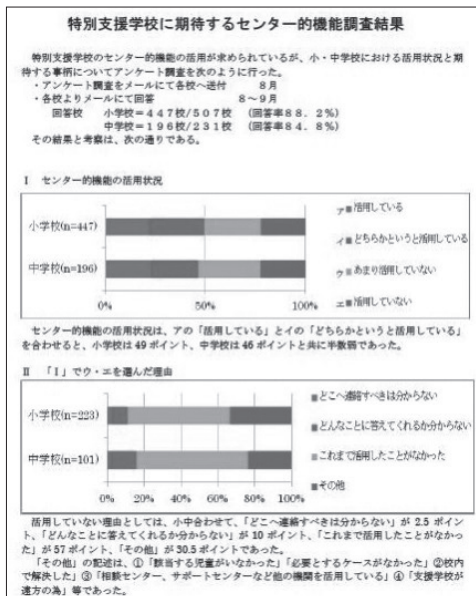
県特支研だより No.「108号」をお届けいたします。お忙しい中、多くの皆様から、玉稿を賜りました。感謝申し上げます。本号が新潟県の特別支援教育の一助となることを願っております。
(事務局)

県特支研のHPをご覧ください

メールアドレス: tokusi@niigata-inet.or.jp

全特連の大会や各地区大会、研究部研修会の様子がみられます。

特別支援学校のセンター的機能の調査として、小・中学校における活用状況と期待する事柄についてアンケート調査を行い、結果をホームページに掲載しました。



- 平成25年度 新潟県特別支援教育研究会 地区大会の紹介**
- 上越地区**・・・上越南部大会(特支研事務局報告)
 - 日時 平成25年8月7日(水)
 - 会場 リージョンプラザ上越
 - 事務局 上越市立坂小学校
 - 大会の概要 (PDF)
 - 中越地区**・・・南魚沼大会(特支研事務局報告)
 - 日時 平成25年11月9日(金)
 - 会場 南魚沼市立北原小学校
 - 事務局 南魚沼市立北原小学校
 - 大会の概要 (PDF)
 - 下越地区**・・・新潟田・北蒲・胎内大会(特支研事務局報告)
 - 日時 平成25年11月29日(金)
 - 会場 新潟市豊浦地区公民館
 - 事務局 新潟市立本丸中学校
 - 大会の概要 (PDF)
 - 佐渡大会**(特支研事務局報告)
 - 日時 平成25年9月19日(月)
 - 会場 津波文会館

- 新潟県特別支援教育研究会 平成25年度 各研究部の取組**
- 平成25年度の各研究部の活動計画をお知らせします。参加を希望される場合は、各事務局までお問合せください。
- ◎ **知的障害部** (事務局:新潟市立新津第一小学校)
- 研修会名称 新潟県特別支援教育研究会 知的障害部研修会
 - 研修会主題 「働くために 働き続けるために」
 - 日時 平成25年8月6日(水) 13:30～16:30
 - 会場 白根学園高等学校
 - 日 期 開校11:30～14:30 開演14:30～16:00 閉校16:00～16:10
 - 講義 演題 「働くために 働き続けるために」
 - 講師 特定非営利活動法人くらしえん・しごとえん代表理事 鈴木 木修 様
- ◎ **自閉症・情緒障害部** (事務局:長岡市立平手小学校)
- 研修会名称 新潟県特別支援教育研究会 自閉症・情緒障害部研修会
 - 研修会主題 「くわいの子は1をキック」